

勉強会報告 2016.07.09 <<<

2016年7月の勉強会は、“尾瀬の仙人”こと山岳写真家の花畑日尚講師による「私の撮影地尾瀬の魅力～ポイントと撮影方法～」と題する講演でした。

リンホフを詰めた40kgのザックを担ぎ、テント泊まりで主に北アルプスを撮影していた花畑先生が尾瀬に関心を持ったきっかけは、30代半ば北アルプスの季節が移行する端境期(天気の良い時期)に、「尾瀬でも撮ってみようか」と思ったことだそうです。山ノ鼻に泊まった際、未明に周囲を覆っていたガスの正体が、尾瀬ヶ原の朝霧だと理解し、とことん尾瀬を撮るようになりました。70歳を過ぎてからは、北アルプスには行かず尾瀬にばかり通うようになり、今は6x4.5のフィルムカメラで撮影しているそうです。尾瀬の撮影は朝夕が主体で、特に朝霧が絵になるため、昼間は寝ていて夕方から行動を再開すること。撮りたい場面に遭遇すると、すかさず撮る、とあえず撮る……それからじっくり構えて撮るのが花畑流。

今年の尾瀬の状況について、お話を伺いました。冬の降雪量が少なかったためか、例年ならゴールデンウィーク中に1.5mの積雪がある山ノ鼻に今年は雪がなく、小屋では一度も雪下ろしをしなければいけなかったそうです。季節が1ヶ月早く進んでいる異常気象の中では寒暖の差も大きく、6月4日に積雪があり、せっかく咲いたレンゲツツジが枯れてしまい、ミズナラの新芽も無残な状態になったそうです。鹿の食害を指摘する人もいますが、広大なところを鹿が食い尽くす訳がない、カキツバタが多い年、ニッコウキ

基礎勉強会報告 2016.08.20 <<<

今まで基礎勉強会に参加したことがなかったため、会報原稿作成のため取材を兼ねて参加(リンホフ持参せず)しました。以下その報告です。

雷鳴が轟き、風を伴った猛烈な雨が叩きつけるように降り、道路上は水煙が上がっている中で勉強会は行われました。取材すべく新宿御苑に向かっていたのですが、地下鉄の駅を出ようにも大雨で出るに不出られず30分間程階段の踊り場で待機を余儀なくされました。

雨が小降りになったので、大木戸門で料金を払い入園すると、休憩所の屋根の下には数本の三脚が立ち、リンホフらし

スゲが多い年など植物の生育には周期があるというのが花畑先生のお考えです。これらの周期により、昨年はワタスゲ、コバケイソウが多く、今年はコバケイソウが少なく、キンコウカが多いそうです。秋の状況は全く予想が付き、現地に問い合わせるしかないとの事です。

「秋の尾瀬」を撮影した32点のカラー作品について、撮影場所、撮影時間帯、狙いなど色々貴重なお話を伺いました。

- ・画面の隅々を大切に。
- ・紅葉が綺麗な所は新緑も綺麗。
- ・梅雨時でも尾瀬では結構晴れることが多い。
- ・木道の上に三脚を据えて撮るのでブレやすい。同一カットを2枚撮る。
- ・リンホフを載せるには重い三脚のほうがブレ防止になる。
- ・尾瀬の撮影は朝夕が主体で、特に朝霧が絵になるため、昼間は寝ていて夕方から行動を再開すること。撮りたい場面に遭遇すると、すかさず撮る、とあえず撮る……それからじっくり構えて撮るのが花畑流。

今年の尾瀬の状況について、お話を伺いました。冬の降雪量が少なかったためか、例年ならゴールデンウィーク中に1.5mの積雪がある山ノ鼻に今年は雪がなく、小屋では一度も雪下ろしをしなければいけなかったそうです。季節が1ヶ月早く進んでいる異常気象の中では寒暖の差も大きく、6月4日に積雪があり、せっかく咲いたレンゲツツジが枯れてしまい、ミズナラの新芽も無残な状態になったそうです。鹿の食害を指摘する人もいますが、広大なところを鹿が食い尽くす訳がない、カキツバタが多い年、ニッコウキ

きカメラが載っている光景が見えてきました。すでに、リンホフを前に参加者が会員から説明を受けていました。一般の参加者は3名でした。町田市の宮城さん(酒巻さんの友人)、茨城県かすみから市から内田さん、お友達の花畑さん。この二人は『チェキカメラによる本郷界隈撮影会』に参加してこの会に参加することを勧められたそうです。外国人の女性も参加を希望していたようですが、この荒天ではためらうのも当然かと。尚、片岡さんは途中から加わりました。聞くところによると、大雨のためタクシーで来ようとしたところ、ずぶ濡れだったため乗車拒否され、徒歩でやってきましたとのこと。若い人はエネルギーが豊富ですね。



は熊が木道を歩き、橋を渡る。

- ・鹿は増えも減りもしていないと思う。ハンターが入っているが、数は減っていない。
- ・トリミングを前提にするくらいなら撮影してはいけない。4x5であっても1mmたりとも切りたくない。これを許せば、次第に癖になる恐れがあり危険だ。
- ・PLフィルターは使用しない。“レンズの前に1枚でも被せたら、ピントが落ちる”という考えが染み付いている。「テカリ」が嫌なら、「テカリ」のない時間まで待ってから撮影する。そもそも、PLフィルターを使用すると色がどぎつくなり、季節感が落ちる。
- ・テレコンバーターはピントが甘くなるので使わない。持っているレンズで切り取れる写真を撮るのがベスト。

最近のデジタルカメラ全盛の状況について

尾瀬に撮影に来る人たちも、じっくり被写体に対峙しようと思わず、簡単にシャッターを切り、帰宅後にパソコンで写真を仕上げるという人が多いことを嘆いています。一方でフィルムカメラ持参の若い女性もいる。実家で眠っていたカメラを使ってみたら面白い、現像が上がるまでのドキドキ感が良いという。デジタルから写真に入った人がフィルムに興味を持つケースもあるそうです。

(板尾 浩 記)

宮城さんは田中副会長から、内田さんは豊島さんから、片岡さんは酒巻さんと清水前会長からカメラ操作の手ほどきを受けていました。三人とも、カメラを三脚に載せ、アオリの操作方法、ルーペを使用してピントを合わせ、露出計を使って絞りとシャッタースピードを計るなどを行いました。一連の操作が終了し、インスタントフィルムを装填しての実写です。シャッターを切る時はやや緊張気味の様子でした。



撮影した映像が出てきたが、いずれも露出オーバーとなっていました。これは、小雨状態から雲間に青空がのぞき、薄日が射す変わりやすい天気のためと思われる。再度アングラー気味に設定して撮影し2枚目を見る。インスタントフィルムの映像が出てくるまでのわくわくする時間は、デジタルカメラには無いもの。モノクロ映像であったが、参加者は感慨深げに見入っていました。手をかけて撮った作品であり、愛着が湧くのでした。

ちなみに、宮城さんがなぜ大判カメラに興味があるかインタビューしたところ、以下のように話してくださいました(要約しています)。

「大判カメラに触れるのは初めてです。建物を撮ってみたい。それは、母の実家である足利の祖父の家で。デジタルカメラでは物足りない。中判でも撮ったが満足できない。アオリが可能な大判で是非撮りたい。今ここで教えてもらわないと教えてくれる人がいなくなってしまうと言われ、参加しました。リンホフカメラが欲しいです。」なお、彼はモノクロ撮影を行っており、酒巻さんと同じ横浜のレンタル暗室“THE DARK ROOM”を使用しているとのこと。私も4x5のモノクロ撮影に取り組んでおり、大判フィルムの現像がプリントまでの暗室作業を語ってしまいました。インタビューが話し過ぎてしまったようです。

■近畿支部だより

1. 第1回近畿支部写真展が開催されました。

近畿支部主催の第1回写真展大阪展が、去る8月12日より18日まで富士フィルムフォトサロン大阪で開催されました。

精緻でシャープな大判フィルムの特性を生かして、全倍サイズのクリスタルプリント、平面性の高いアルボリックパネル、さらに統一された銀色額縁を使用した芸術性と完成度の高い作品として展示しました。

プロを含めた多くの来場者から、優れた質感の表現、シャープで自然の雰囲気や空気感の描写、臨場感のあふれた作品に「これが本当の風景写真だ」とお褒めの言葉をいただきました。

引き続き、京都展が9月9日より14日まで京都AMS写真館ギャラリーで開催されます。会員の皆様のご来場をお待ちしています。

《勉強会・作品講習会・基礎勉強会》

※会場：貸し会議室利用のため、二ヶ月前に決定致します。ホームページ等でご確認ください。

勉強会・作品講習会	2016年10月15日(土)	10:00~16:00	勉強会：八掛会員/作品講習会：内田良平 会場：本郷大同ビル9F会議室	3000円
勉強会・作品講習会	2017年1月14日(土)	10:00~16:00	勉強会/作品講習会 講師未定 ※	3000円
基礎勉強会	2016年11月19日(土)	10:00~13:00	新宿御苑 大木戸門売店集合	無料
基礎勉強会	2017年2月18日(土)	10:00~13:00	新宿御苑 大木戸門売店集合	無料

■お申込方法：事務局まで電話、ファックス、メール等でご連絡ください。参加費は当日徴収致します。

【編集後記】 2年前の夏仕事で動画撮影を試みました。ビーチでのイベントをデジタル一眼の動画で撮ろうとしたのですが、日差しが強くて液晶モニターがよく見えないうらに、カメラを右に向けようとしたら左に、上に向けようとしたら下に向けてしまうありさまでした。上下左右が逆の世界で長年撮影を続けてきたことに起因することを、すぐに悟りました。雑誌「山と溪谷」の臨時増刊「山の写真」(1981)に次のような記事がありました。……先日、某先生のリンホフ・スーパーデニカをノゾかせてもらった。何と！我が愛するH岳が逆さまに見えるではないか。「このカメラ壊れている！」と思わず叫んでしまった。山岳写真家の先生方に変った人が多く理由がやや不明な。こういうカメラで常に世間を見ているから、変わらざるを得ないのだから。一種の職業病だ……さて、近頃切に思っています。風景を逆さまに見続けていたと……。(板尾 浩)



日本リンホフクラブ会報

Japan Linhof Club (JLC)

〒113-0033 東京都文京区本郷3-39-14 株式会社ワイズクリエイティブ内

TEL 03-5689-2776 FAX 03-5689-2786

日本リンホフクラブ会報制作委員会(板尾浩、川太泰夫、佐川憲一郎、事務局)

http://www.linhof-club.com info@linhof-club.com

VOL.30

2016年9月25日発行

全倍写真展 アンケート結果報告

過日、5月末締め切りとして全会員対象に“全倍写真展”開催についてのアンケートを実施しました。その結果、80名の方から回答を戴きました。有難うございました。中には写真展に一度も参加した事がない方もおられ、関心の高さが伺いれました。以下、結果の報告と結論です。

(写真展委員 江口 英信)

写真展アンケート結果

2016年5月実施

会員数：120名(関東以北：88名 静岡以西：32名)

回答数：80名 = 回収率67%

(各設問にたいする回答数が、80名より多かつたり少なかつたりします。これは、A1~A3に回答して、更にA4にご意見を記入し、その反対に回答が全く無い方がおられるためです。回答比率は、80名に対する割合です。)

Q1. 展示作品の大きさは?

- A1. 従来通り全紙・・・21名(回答比率=26%)
- A2. 全倍が良い・・・18名(同上=23%)
- A3. 全紙・全倍混合・・・37名(同上=46%)
- A4. その他・・・9名

Q2. 写真展にかかる費用(プリント代+諸経費)は幾らまでOKですか?

- A1. 3万円程度で良い・・・30名(回答比率=36%)
- A2. 5万円位まで・・・46名(同上=58%)
- A3. 7~8万円位良い・・・4名
- A4. その他・・・5名

Q3. 展示会終了後作品を主としてどのように扱っていますか?

- A1. 自宅で保管・・・65名(回答比率=81%)
- A2. 施設や、知人・友人へ・・・12名
- A3. その他・・・10名

Q4. 全倍の場合全紙では目立たなかったブレ・ボケがよりはっきりしてくるので、作品選考に厳格さが求められます。よって、応募された作品が一点も採用されない、ということも生じます。どう思いますか?

- A1. 全倍で駄目なら諦める・・・41名(回答比率=51%)
- A2. 駄目な場合、再提出を・・・23名(同上=29%)
- A3. 全員参加なら目につく・・・8名
- A4. その他・・・6名

Q5. 全紙・全倍混合展の場合、誰が全倍を決めるのか?

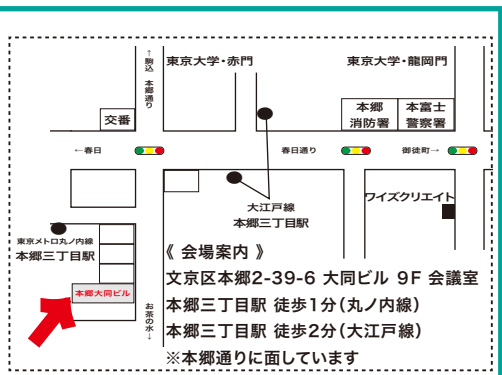
- A1. プロが決めれば良い・・・28名(回答比率=35%)

10月の勉強会・作品講習会のご案内

10月の勉強会(15日午前10時~)は、八掛会員による「カラープリントについて—現在のプリント事情—」という講演です。この分野に造詣の深い八掛さんが、従来と同じ様な色調や雰囲気になったプリントに仕上げる為の注意点について解説します。

作品講習会(午後1時~)は、“閑良屋舎(ヒマヤカキ)”(宇田川、荒田の両会員が所属)を主宰されている山岳写真家の内田良平さんです。

開催場所は「本郷大同ビル9F」の会議室です。地下鉄丸ノ内線本郷三丁目駅下車直ぐ。多くの会員のご参加をお待ちしています。





私のこの一枚

佐藤 勇治

Yuji Satou



中判カメラクラブ、JLC 日本リンホフクラブ、マミヤカメラクラブへ入会しました。初心者向けの『大判カメラマニュアル』も購入し、同時にオーナーでもある木戸嘉一さんに丁寧なご指導を受けました。教え方がとても素晴らしかったので短時間でアオリ技法を覚えることができました。その他、木戸様を信頼しているいる解らないことを何でも聞いて教えて頂きました。今でも感謝しています。その後、しばらく大判カメラマニュアルの本にとらめっこしながら、指導してもらった技法を身に付けるため、近くの昭和記念公園や神代植物公園、小金井公園などへ出掛け、『アオリ技法』を時間をかけてじっくり撮影訓練していました。ようやく馴れてきた頃、大判カメラ風景写真の訓練場所を探していたので、四季折々通っていきける場所を『上高地』に決め、新宿からの高速バスで行け、年に何度も通える撮影訓練の本拠地としたのです。現在は、福島県裏磐梯を撮影本拠地としています。年に数回通っています。しばらく上高地で訓練していた頃、ワイズ大判カメラクラブで春のバス撮影旅行の案内があり、八千穂高原撮影会があったので初めて参加させていただきました。その時の講師は故近藤辰郎先生でした。コンタツ先生で親しまれていることをワイズの HP で初めて知ったのもその時です。ニコニコ笑顔でとても親しみやすい先生でした。

故近藤辰郎プロとの出逢い

山岳写真家である有名近藤辰郎先生との出逢いは八千穂高原撮影会の時です。初めて大判カメラ撮影のご指導を受けたのは近藤辰郎先生が初めてでした。近藤辰郎先生は、素人の私に対して、決して偉ぶらず、とても謙虚で、人柄が良く、人懐っこく親しみを持って優しくご指導下さいました。素晴らしい先生だったことを今でも忘れられません。懐かしく思い出されます。先生のご指導で聞いた忘れられない言葉があります。『構図をピシッと決めたら太陽の光を上手く活用してシャッターを切ることだよ』と親切に教えてもらったことです。その内の一枚が八千穂高原で撮影した添付の思い出の作品です。今でも幾つかの思い出のコンタツ先生ご指導による作品を保存してあります。4x5判フィルムおよび 645D デジタルの二種類の作品です。今でも自分が撮影したつもりでも、なぜかコンタツ先生の魂が込められた作品に思えて仕方がないのです。素晴らしいご指導の賜物でした。

上高地河童橋バスターミナル記念館では、近藤辰郎先生の山岳写真集も置いてあったので記念に買いました。名作ばかりの山岳写真でとても感動しました。私は、普段山は殆ど撮らない風景写真が多いのですが、PFJ 日本写真家連盟の例会の時、山岳写真家である有名な川口邦雄講師に褒めてもらった山岳の作品があります。2013 年 10 月中旬に撮影した上高地穂高連峰の『冬將軍到来』が文句の付けようのない大好評で、素晴らしい作品だと合格点ももらったことです。その作品が、一昨年、上野美術館で初めて開催された PFJ の『四季の彩り展』に全倍で展示されました。

ピントと構図が決まっていたので、我ながら感動で嬉しい気持ちになったものです。コンタツ先生のお陰だと感謝しています。今年の作品も、同じ川口邦雄講師の推薦で最高点を頂いた裏磐梯で撮影した初雪早朝の冬景色『冬幻夢』が展示されました。現在、全国展を巡回し、最終の北海道展が終了する頃の 7 月下旬にまもなく戻ってくる予定です。その作品を今度は中央線武蔵境駅近くの日赤病院へ 10 月初旬頃に展示予定になっています。ここは大きな日赤病院で、患者さんのために当院の希望で特別許可された PFJ 日本写真家連盟へ要請され、無料展示の PFJ 作品ばかりの写真展です。

第 8 回 撮影会「残雪の白馬三山とミズパショウ」報告 2016.6.11 ~ 12 <<<

今年は異常ともいえる気候の影響で全国的に例年より早く開花している、というニュースが入り、少し不安な感じでした。今回の撮影地でも例外なく、5 月の連休前にグレンデの雪が解け、スキー場は例年より早く閉鎖。水芭蕉も開花が早くなっていました。



6 月の初めにも異常な気象状況に見舞われ、梅池自然園に雪(霰)が降ったようです。ようやく咲き始めた水芭蕉が被害を受けてしまいました。そのような状況について、ビジターセンターや山小屋の関係者の方は、めったにない状況であり、楽しみに訪れた人にはとても残念です、と話していました。

撮影会当日は、現地山小屋と小谷村による「水芭蕉祭り」を予定していたのですが、水芭蕉の状況が思わしくないので、急遽「梅池自然園祭り」と名称を変更し、「よもぎ餅つき」「山菜汁」「甘酒」などが振る舞われ、観光客と一緒に私も相伴にあずかりました。午後の集合時間になると全員が揃いました。今回は、男性 13 名、女性 2 名の 15 名が参加。最初に記念写真を撮り、今回の撮影会スケジュール、ポイントなどの説明をしてから、各自思い思いのポイントへ移動し撮影をして

まだまだこれからの私は、本当の名作品が生まれるのは時間の問題かも知れません。神が造られた大自然の美しさや対峙しながら、神と一心同体の気持ちで作品づくりに努力精進したいと思っています。神に感謝しつつ、『一写入魂』の思いで撮り続けたいと思っています。尚、もう一方の大判カメラの活用法として、大判カメラとデジタルカメラ 645 とのコラボレーションで創る作品もこれからの新しい時代の有望な大判カメラの創作世界かもしれません。フィルムとはまた違った美しいデジタルの写真世界があり、今後が楽しみです。(小金井市在住)

いただくことになりました。あまり恵まれた環境ではなかったのですが、さすが日本リンホフクラブの皆さんは、残雪の残る山並みとダケカンパなどの新緑などを撮影されていたようです。夕方にはヒュッテに戻り、入浴を済ませ食堂に集合し、食事と懇親会に移りました。和やかな雰囲気の中予定の時間が過ぎて 2 階の談話室へと場所を変更し写真談義に盛り上がりました。翌朝午前 4 時起床。日の出前の天気は曇りがち、撮影にはまあまあ条件でした。それぞれ自然園の中のポイントに入っていました。私には、数名の方と一緒にヒュッテの近くで、朝日に輝く山並みなどを狙い、シャッターを切りました。周りを見渡すと、冠布をかぶりピントを合わせる姿が見受けられました。わずかに赤みを浴びたようでしたが、きっとチャンスをもに

したのではないかと思います。朝食後に一度解散とし、その後の行動は自由としました。撮影したり、散策をされたり、帰宅予定時間まで有効に過ごしてもらうことにしました。時間とともに曇が出てきたので、撮影は苦労されたようでしたが、前日行けなかった場所へ入ったりして撮影をしていようでした。きっと傑作(?)が出来たのではないかと思います。今回の撮影会は、なかなか思うようなチャンスに巡り合えず期待外れとなってしまい、自然界の厳しさを改めて思い知らされました。これからも会員の皆様方から、いろいろなご意見を伺う中で撮影会を計画していきたいと思っています。よろしくご協力をお願いします。(撮影会委員 小寺 忠夫 記)

「赤城自然園」日帰り撮影会(10/22) 前号会報にてご案内しました「赤城自然園」での日帰り撮影会が近づいてきました。ご参加お待ちしております!

に事務局あてご連絡お願い致します。電車で来られる方々には、JR 渋川駅から会員の車でのご送迎を検討します。ご不明の点がありましたら、撮影会委員までお問い合わせください。

□開催日 平成28年10月22日(土)
 □集合 渋川市赤城町南赤城山892 赤城自然園 入口 午前10時
 ※園内には、食堂、売店はありません。各自、事前に用意してください。
 □小寺:090-1769-6316 □飯塚:090-1400-4126 □佐川(泰):090-4910-2611

植 会員からのお知らせ 新宮市に在住で、カラーネガで作品作りをされている植 成實さんが、「国際文化力レゾ」主催の第20回“総合写真展”に出展されます。時期は12月初旬と先ですが、是非足を運んで仲間の作品をご覧ください。

□会場 上野・東京都美術館
 □会期・時間 2016.12.06(火)~12.11(日) 09:30~17:30(最終日は正午まで)



梅池撮影会に参加して

—貴重な体験— 番場 清隆

私は入会 3 年目で、今回はじめて撮影会に参加しました。そこで、はじめての“貴重な体験”をしました。その内容は文末で?

日程前日の 10 日午後 8 時過ぎ、渋谷会員とともに東京を出発。11 日午前 0 時過ぎには、白馬村の青鬼集落に入り、デジカメで?星空や夜景撮影の研究?フィルム消費を気にせず、いろいろ試せるのはデジカメならでは…。もちろんそれらのデータをもとに、いずれ 4x5 で、と考えての試行錯誤。数時間後夜明けを迎え、早朝の棚田風景を 4x5 で数枚撮影。ここでは、何とか 1 枚は写っていました?朝の撮影を終え国道沿いに降りて蕎麦屋で朝食。そこのご主人曰く「42 年商売をしてきたが、こんな雪の少なかった冬は初めて。」という話は、水芭蕉も終わりが近い、と話しながら梅池パノラマウェイの乗り場へ。

山上上がり、10 時半過ぎには梅池ヒュッテ着。既に、川太会長をはじめ会員の皆さんが数名おられました。一休みの後、まず下見ということで梅池自然園へ。やはり水芭蕉は、終わりという感じで、湿原も乾き気味の“乾原”状態。梅池ヒュッテ

に戻り昼食後、午後は一番奥まで行くことと機材をまとめ出発。途中で川太会長ほか数名の皆さんと合流。一番奥の方の「ヤセ尾根下」というところに着くと眼下にダケカンバや白樺のある風景が広がり、背景には雪渓が見え、まさに「画境」に入った感じで、皆さんとともに数枚撮影。しかし、虫の多さに閉口。

この先は、木で組まれた階段の文字通りヤセた尾根を、大判の機材とともに登る結構なアルパイト。大汗をかいたところに、さらに膨大な数の虫たち。数十万匹か、それ以上か。鼻や口の中まで虫が入り、耳に入った奴らは中でケンカしてやがる…?そんなすさまじい状況の中、皆さん必死で撮影。私も、ここぞとばかり数枚撮影するも、もしかしてカメラに虫が入り、カメラが虫に食われたかもと変な予感が?「ヤセ尾根」を征した後は、ヒュッテに戻り初日の撮影を終了。湿原は“乾原”で、やたら虫が多い、というのが初日の印象でした。

さて 2 日目。私は、朝早くの撮影は“遠出”を諦め、というかサボり、ヒュッテの下で一応日の出を狙いましてが撮影せず朝食へ。午前 9 時過ぎには「今日は、各自フリーで。」と撮影会としては解散。その後、皆さんそれぞれ自由に撮影。私は、あの“虫さんたち”に会うのはイヤだ、という

ことで虫の多い奥へは行かず、水芭蕉湿原で頑張ることとし、リュウキンカや晩熟?の水芭蕉などを捕まえ、カメラに収めました。そして、昼も食べるころ、撮影を切り上げ下界へ。昼食後帰路に。今回の撮影は 22 枚。

そして結果は…まともに写っていたのは、最初の青鬼での 1 枚のみ! ?あとの 21 枚はカブリで没! ?原因は「蛇腹切れ」!!ピンホールというレベルではなく?虫に食われたか?振り返れば、2 日目は長焦点レンズばかり使っていたし、さらに膨大な数の虫たち。なぜか、いつもは暗いリンホフのグランドグラスが、この日は幾分明るく感じたような…?カメラに収めた数々の傑作?は、どこかへ逃げてしまったようです。まるで、虫みたい?

私は 2 日間、“明るい暗箱”を担いで高原を彷徨っていたのです。皆さん、蛇腹のトラブルには、くれぐれもご注意ください。といっても、一定の年限で交換するしかないのではよね。それと、気休めに冠布など蛇腹にかぶせて撮るのがいいのかも。

久しぶりの“貴重な体験”でした。でも、2 日間の“撮影会”そのものは、とても楽しいものでした。川太会長はじめ撮影会担当の役員の皆様、参加された会員の皆様、大変お疲れ様でした。

(清瀬市在住)



作品講評会報告 2016.07.09 <<<

午前中の講演会に引き続き午後の部も、花畑日尚先生から会員持参の作品について講評をいただきました。作品を提出した会員は 22 名で、内訳は 4x5 のボジが 19 名、8x10 のボジが 1 名、モノクロプリントが 2 名で、それぞれ 5 点から 3 点の作品を提出し、講評を受けました。

以下、先生から指摘のあった内容について、いくつかピックアップしました。

- ・光線の状態が気に入らなければ、妥協せずに納得できる状態になるまで待つくらい余裕のある撮影をして欲しい。
- ・画面内の明暗差が大きくても、無理をして PL や ND フィルターを使わず、遠くがかすむ写真で良いのではないか。春の写真など、季節感を出せる。
- ・枝葉が揺れている時は、止まるまで待つ。妥協はいけない。「せっかく

来たのだから記念に撮影」するのはお金の無駄。
 ・湖面への倒影は、波があると汚く見える場合がある。湖面への倒影がまだらな時は 5~6 秒バルブ露光し、倒影部分を単一色にするのも良い。
 ・遠くの山と川への倒影を入れた作品で、視線を下に向けさせるために山をカットする場合もある。

・桜やミツバツツジなどを主体とする撮影では、樹の全体を画面に納めるよりも、頂上部分を少し切った方が樹の大きさを表現できる。木の幹を中央よりも少しずらす方が良い。
 ・大きな樹木は、地面まで入れて撮るようにしている。
 ・山小屋に泊まると、とかく朝食の時間とシャッターチャンスが重なる。朝食を遅らせてもらうか、おにぎりを作ってもらうと良い。

何とか焦点距離を伸ばして、主役である被写体の背景にある空のカケ